

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は昭和51年の創立以来、生徒一人ひとりを大切に育てる学校、地域に愛され、信頼される学校をめざしてきた。その伝統を受け継ぎながら、さらに生徒のニーズや保護者の期待に応える学校となることをめざす。具体的には、次の三つに重点を置く。

【1】生徒の自己実現を最大限に支援する学校 【2】すべての生徒が安全・安心に生活できる学校 【3】地域としっかり連携して生徒を育てる学校
人権教育をベースとした系統的なキャリア教育を行うとともに、きめ細かな学習指導、生徒の安全・安心につながる生徒指導を教職員が一丸となって行い、生徒や保護者に「野崎高校に入学してよかった」と心から言ってもらえるような学校づくりを行う。

2 中期的目標

1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり

(1) 生徒の「学ぼうとする力」を育成する

ア 校内における教員相互の授業見学、初任者研修・10年経験者研修等による公開授業・研究協議への参加や、大阪府教育センターや大東市内中学校等で実施される研修・研究授業等に参加することで、教員の「授業力」を向上させる。

イ ICT機器の活用、授業形態や授業方法を工夫改善することを通して、本校生徒にとっての「わかる授業」「できる授業」を行う。

ウ 本校生徒の様々な学習活動の場として、またメンタル面から支援する居場所カフェの場として、図書室の整備・充実を図る。

エ 新学習指導要領に対応した新たなカリキュラム編成を行う。

令和4年度までに、生徒授業アンケートの「授業内容に興味・関心を持つことができた(興味関心)」と「授業を受けて知識や技能が身に付いた(知識技能)」について、回答ポイント(満点4.0)を3.25以上にする(H29 2.97・3.00、H30 3.00・3.02、R1 3.10・3.12)。

令和4年度までに、生徒向け学校教育自己診断の「授業は分かりやすい」と「自分は授業にまじめに取り組んでいる」について、肯定的回答率を70%以上・80%以上にする(H29 58.2%・68.9%、H30 58.0%・71.4%、R1 62.2%・73.5%)。

(2) 生徒一人ひとりの進路目標を実現する

ア 生徒の社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成できる、3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践に取り組む。

イ 地元企業・各種企業団体と協力した職場見学・インターンシップ、大学・短大・専門・専修・各種学校等と協力した学校見学や体験入学、各種業者による体験セミナー等に参加する機会を増やすことで、生徒の進路意識の向上を図る。

令和4年度までに、生徒・保護者向け学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」について、肯定的回答率をともに80%以上にする(H29 生徒68.6%・保護者77.6%、H30 生徒72.2%・保護者79.2%、R1 生徒73.3%・保護者76.8%)。

毎年度において、学校斡旋による就職内定率100%と、理由のない進路未決定者0名をめざす。

2 すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくり

(1) 家庭や地域と連携した遅刻指導、服装・頭髪指導、挨拶・マナー指導等を通して、生徒の規範意識や自律心を育成する。

(2) きめこまやかな教育相談・支援教育の体制を構築することにより、さまざまな困り感を抱える生徒の早期発見と早期対応につなげることで、問題事象の発生や不登校、中途退学につながることを防ぐ。

(3) 人権教育や総合的な探究の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神を育成する。

(4) HR活動、生徒会活動、部活動、学校行事等において生徒が主体的に参加・行動する取組みを進めることで、生徒の自尊感情や自立心を育成する。

(5) 校内防災体制の整備充実と、卒業後を見越した生徒の健康増進を図る取組みを進める。

令和4年度までに、生徒向け学校教育自己診断の「マナーや校訓を守っている」「頭髪・服装指導は適切である」「遅刻指導・授業遅刻指導は適切である」について、肯定的回答率を90%以上・70%以上・80%以上にする。

(H29 86.0%・58.9%・67.4%、H30 84.0%・66.4%・72.1%、R1 85.9%・64.5%・73.7%)

令和4年度までに、年間の登校遅刻延べ回数を8000回未満にする(H29は10949回、H30は8623回、R1は10249回)。

令和4年度までに、生徒向け学校教育自己診断「相談できる教員は担任以外にもいる」の肯定的回答率を80%以上にする。

(H29は65.2%、H30は70.4%、R1は74.8%)

令和4年度までに、生徒向け学校教育自己診断の「学校はいじめ・差別に対して適切に指導している」「人権や命の大切さについての教育が行なわれている」について、肯定的回答率を85%以上・95%以上にする(H29 72.3%・82.5%、H30 76.4%・83.6%、R1 78.2%・88.1%)。

令和4年度までに、生徒の部活動の加入率を40%以上にする(H29は32.0%、H30は32.0%、R1は32.0%)。

令和4年度までに、生徒向け学校教育自己診断「学校へ行くことが楽しい」の肯定的回答率を75%以上にする。

(H29は65.5%、H30は66.2%、R1は70.0%)

令和4年度までに、1・2年生の進級率を現在よりそれぞれ5%向上させる。

(H29は1年生84.4%・2年生87.8%、H30は1年生90.4%・2年生90.1%、R1は1年生84.5%・2年生86.4%)

3 地域としっかり連携して生徒を育てる学校づくり

(1) 従来から実施されている各種地域連携行事に、本校生徒・教職員が今後も継続的に参加できる校内体制を整備する。

(2) 本校が中心となった地域連携行事を企画・実施する。

ア 近隣の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校の児童生徒と本校生徒が交流する機会(行事、部活動、出前授業等)を設ける。

イ 地元の保育所、小・中学校、高等学校、大学等の教職員と本校教職員が交流する機会(合同研修等)を設ける。

(3) 本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信する広報体制を確立する。

ア 本校ウェブページの学校ブログ等を定期的に更新することで、最新の情報を中学生、保護者、地域住民等に伝える。

イ 中学校への広報活動を充実させることで、本校志願者の確保に努める。

4 教職員の働き方改革推進

(1) すべての教職員が、担当業務についての必要性和効率化を常に意識する習慣を持つことを全校的に推進する。

令和4年度までに、教員一人平均の月当たり時間外勤務を25時間以内にする(H29は35時間、H30は30時間、R1は27時間)。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 2 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【全般的に】</p> <p>生徒向け（23 項目） 保護者向け（19 項目）の診断結果を肯定的回答率で分類すると、70%以上の項目が生徒 18/23 項目、保護者 15/19 項目、40%台は、生徒 2 項目、保護者 1 項目であった。以上のことから、本校の教育活動が一定の支持を得ていると考える。</p> <p>以下では、肯定的回答率が 40%台の項目と、前年より大きく変化のあった項目を中心に考察する。</p> <p>肯定的回答率が 40%台の生徒向け項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「校舎内の清掃が行き届いている」の肯定的回答が、一昨年度から -3.9%（H30 38.3% R1 44.9% R2 41.0%）、数値がまだ半数に満たないことから、次年度も引き続き清掃指導の充実を図る。 ・「ホームページ・ブログなどで学校の情報をみている」の肯定的回答率は 3 年連続して微増しているが（H30 47.6% R1 48.7% R2 49.3%）数値が半数に満たない。生徒により一層定着させる必要がある。 <p>肯定的回答率が 40%台の保護者向け項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者懇談や学校行事に積極的に参加している」の肯定的回答は 3 年連続微増しているが（H30 42.5% R1 42.9% R2 48.1%）数値が半数に満たない。引き続き保護者への学校行事等の周知や情報提供、参加しやすい行事形態等の検討、PTA 役員の皆様との連携の充実を図っていく。 <p>前年度より大きく上がっている項目</p> <p>【生徒】「授業はわかりやすい 6.2%」「自分は授業にまじめに取り組んでいる 9.1%」「自分はマナーや校訓を守っている 6.6%」「先生がパソコン等を使う授業はわかりやすい 7.4%」「先生はわかりやすい授業のために工夫している 6.0%」「LS を通して自分の成長を感じることができた 5.6%」</p> <p>【保護者】「子どもは「授業はわかりやすい」と話している 10.1%」</p> <p>「保護者懇談や学校行事に積極的に参加している 5.2%」</p> <p>授業関連の項目が前年度より大きく上昇している。今年度はコロナの影響もあり、全教員にパソコンでオンライン教材を作成するなど授業改善に取り組んだ。これまでの校内での公開授業・研究協議の実施や ICT 機器の活用、授業形態や授業方法を工夫し改善してきた成果と考える。</p> <p>前年度より大きく下がっている項目</p> <p>【保護者】「学校はいじめ・差別に対して、適切に指導している -8.3%」「子どもは体育大会や球技大会を楽しみにしている -14.2%」「子どもは修学旅行を楽しみにしている。楽しかった。 -6.2%」</p> <p>行事関連の項目が大きく下がっている。「いじめ・差別」の項目についても学校の指導に関しては 73.7%の肯定的な回答があるが、今年度人権関連の行事として例年とおり実施できていない部分もあり数値が下がっていると考えられる。</p>	<p>（第 1 回）令和 2 年 5 月 26 日</p> <p>教育相談・支援体制</p> <p>学校経営計画の「安全・安心」きめこまやかな相談・支援が非常に大事になってくるのではないかと。学校のみならず、スクールカウンセラー等外部の人の関わりが非常に重要になってくる。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止</p> <p>学校再開に向けては、生徒と先生の安全性の確保が最優先課題であり、朝の体温の確認などが必要である。一方でこれからの季節は熱中症も心配である（マスク、フェイスシールド）。会社では朝だけでなく昼にも検温を行っているところもある。意識の問題がまず大切で、生徒に対してもマナーやエチケットを身に付けさせる指導が必要。</p> <p>○オンライン授業関連について</p> <p>大学でもネット会議を行っている。最初のうちはとまどいもあったが、何回かやっているうちに慣れた。感染拡大の第 2 波が来た場合に備えて、その状況に対応するため、オンライン授業の体制を整えておく。課題は家庭のインフラが整っていない生徒への対応、パソコンでオンライン教材を作成するのに困難を感じている教員へのサポートなど。</p> <p>○広報活動関連</p> <p>定員割れの問題については、これで 2 年連続であるが、改編の対象となるなどの状況は条例で決定した通りで変わってはいない。</p> <p>定員割れで統廃合の対象とならないよう、野崎高校ならではの魅力を作り出せたらと思う。どうやって学校を残していったらいいか、考える時期。</p> <p>新型コロナ感染拡大防止のため、広報活動も行えない状況である。野崎高校の学校ホームページはよくできているので今のやり方で続けていかれたらと思う。オンライン広報というものもあるかもしれない。</p> <p>学校行事について</p> <p>文化祭、体育祭、修学旅行などの学校行事は、そもそも実施できるのか、授業だけでなく可能な限りそういったものも大事にしていきたいところだが、授業を確保しながらどのように入れ込んでいくのかという問題もある。</p> <p>生徒や保護者の気持ちとしては、学校行事がどうなるのか、あるかないのか、そういったことが大変気になっており早く知りたい。学校行事においても感染拡大防止対策を十分講じて決定していかなければならない。</p> <p>部活動について</p> <p>クラブ活動にしても同様である。</p> <p>部活動については、インターハイや甲子園が中止となり、モチベーションが低下しているだろう。各種検定についても実施できなくなっているものが多数ある。自己推薦型の総合型選抜においてアピールできるものを残すチャンスが失われた。それでも、大学等においては実施の方向である。</p> <p>人権教育関連について</p> <p>医療の関係者に対する新型コロナの人権という角度から見て新しい差別が出てきている様子。日常生活においても、近所の人の様子から感染を疑うようになっていたり、関わらないようにしよう、人と会わないようにしようという心理がはたらいたりしていることがうかがえる。</p> <p>（第 2 回）令和 3 年 2 月 26 日</p> <p>体験入学会「チャレンジ野崎」の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北河内の中学校の参加が多く、参加した人はとても良いイメージとなっている。また、説明会においても学校の紹介が分かりやすいとアンケートの結果が出ている。教育活動に対しても良い印象を与えた素晴らしい取り組みだと思う。 ・申し込み方法や他校との日程を避けるなどいろいろと工夫されおり、参加者数が増加したことは素晴らしい。来年度以降も続けてほしい。 <p>生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人の教員だけでなく、多くの教員がかかわり指導している体制はとても良い。 ・挨拶運動、清掃活動、生徒の作品展示、コミュニケーションワーク、チームワーク学習などとても良い取り組みをしている。 ・学校のルールや規範意識についてなど生徒会と共に考え、より一層、自主活動・クラブ活動を活性化して欲しい。 ・登校遅刻者数を減少するということは、どこの学校でも大きな課題である。辛抱強く続けて欲しい。 <p>（第 3 回）令和 3 年 3 月 26 日</p> <p>○「令和 3 年度 学校経営計画及び学校評価」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組内容等は、基本的にはこの内容で良いと思う。今年度は、新型コロナの影響で学校運営のなかで大きな変更を余儀なくされた部分も非常に多くあったと思う。来年度もこの状況は続くと考えられる。その中で今までできていたことができない状況での学校教育に対する生徒や保護者の不安感を少しでも少なくすることが重要な課題の一つであると考えている。校長先生のリーダーシップのもと教職員一致団結して取り組んでいただき、更なる学校経営の充実を願います。 ・生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくりにおいて、教育センター以外の地元の中学校で

府立野崎高等学校

	<p>の研修・研究授業に参加されているのは、地元の中学校をよく理解するうえでも素晴らしい取り組みである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの進路目標を実現する項目で、職場見学やインターンシップなど、生徒の進路意識の向上につながると考えるので、更なる充実を期待する。 <p>○「令和2年度学校自己診断集計」の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業はわかりやすい」などの数値が高いのは、コロナ禍のなか先生方がわかりやすい授業のためにいろいろと工夫された結果だと考える。 ・「頭髪・服装指導は適切である」の数値が他の項目より低いのはどこに課題があるのか。 ・「野崎高校へ入学して良かった」について、1年生が2・3年生より肯定的な値が低いのは、今年度コロナ禍で教育活動がいろいろと変更された影響ではないかと考える。3年間過ごしてもらって、卒業する時には、「野崎高校で良かった！」と思ってもらいたい。 <p>○本校の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導について、生徒指導部の様々な取り組みには非常に充実した内容を感じる。今後も家庭環境や人間関係などから見える課題を見つけ、このコロナ禍のなか、非常に厳しい状況ではあるが、日々の生徒指導をはじめ、学校行事や部活動、生徒会活動などを更なる充実を図り、生徒一人ひとりに寄り添う指導をお願いしたい。 ・喫煙指導については、一旦、習慣付いてしまうとなかなかむつかしい指導になってしまう、コロナ休業中にヒマを持って余して悪い習慣が入り込んでしまったのか？触法行為なので、見過ごしている保護者責任へのアプローチも考えてみては。 ・1年生が2・3年生より1+2の値が低いのは、今年度コロナ禍で教育活動がいろいろと変更された影響ではないかと考える。 ・遅刻が多いのが心配である。コロナの影響により学校生活が楽しめないことが原因ではないか。 ・人権教育について、SHINGO 西成様やちゃんへん様、仲間しゅん様を講師に迎え、講義や講演を行ったことについては高く評価できる。講師の方々の生き方や前向きな姿勢は生徒にとってプラスになったと思われる。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり	<p>(1)生徒の「学ぼうとする力」を育成する。</p> <p>ア 教員の授業力を向上させる。</p> <p>イ 本校生徒にとっての「わかる授業」できる授業を行う。</p> <p>ウ 図書室の整備・充実。</p> <p>エ 新たなカリキュラム編成。</p> <p>(2)生徒一人ひとりの進路目標を実現する。</p> <p>ア 3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践。</p> <p>イ 生徒の進路意識の向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・校内での公開授業・研究協議の実施。</p> <p>・校外での研修・研究授業等への参加。</p> <p>イ・ICT機器の活用、授業形態や授業方法を工夫改善する。</p> <p>ウ・本校生徒の様々な学習活動の場として、またメンタル面から支援する居場所カフェの場として、図書室の整備・充実を図る。</p> <p>エ・新カリキュラムを今年度内に編成する。</p> <p>・今年度導入した新たなコース制の定着を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア・3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践に取り組む。</p> <p>イ・地元企業・各種企業団体と協力した職場見学・インターンシップを実施する。</p> <p>・大学・短大・専門・専修・各種学校等と協力した学校見学や体験入学の実施。</p> <p>・各種業者による体験セミナー等に参加する機会を増やす。</p> <p>・生徒が各種検定試験(漢検 英検 ワープロ検定 数検 時事検定 情報処理技能)における資格取得をめざすことで進路意識の向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・校内で年間5回の公開授業・研究協議を実施。(令和元年度は6回実施)</p> <p>・年間で5名の教員が校外の研修・研究授業等へ参加。(令和元年度は5名が参加)</p> <p>イ・生徒授業アンケートで「興味関心」「知識技能」の回答ポイントを前年度より0.05向上させる。(令和元年度は3.10・3.12、満点は4.0)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」「授業にまじめに取り組んでいる」について、肯定的回答率を前年度より3%向上させる。(令和元年度は62.2%・73.5%)</p> <p>ウ・図書資料と図書室設備の充実を図る。</p> <p>エ・カリキュラム委員会を毎月開催し、新カリキュラムを年度内に編成する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒・保護者向け学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」について、肯定的回答率を前年度より3%向上させる。(令和元年度は生徒73.3%・保護者76.8%)</p> <p>・学校斡旋による就職内定率100%、理由なき進路未決定者0名(令和元年度は100%と0名)</p> <p>イ・各種進路行事(大阪産業大学見学会 進路フェスタ 職業体験セミナー)への参加生徒数を前年度より増やす。(令和元年度は15名、未実施)</p> <p>・各種検定試験の受験者と合格者を昨年度より増やす。(令和元年度の合格者数/受験者数は、12/42、12/37、43/82、8/13、5/10、1/2)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・年間10回の公開授業・7回の研究協議を実施()</p> <p>・年間6名の教員が校外での研修・研究授業等へ参加(○)</p> <p>イ・3.11(+0.01)</p> <p>3.14(+0.02)で未達成()</p> <p>・68.4%(+6.2%)</p> <p>82.6%(+9.1%)と大きく上昇しており目標達成()</p> <p>ウ・PTAの寄贈(10万円)で図書資料を整備。(○)</p> <p>エ・カリキュラム委員会を8回開催し、昨年度からのカリキュラム案を一部変更した。()</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒74.5%(+1.2%)保護者73.7%(-3.1%)で未達成()</p> <p>コロナ対応による急な日程変更があり、特に3年生保護者へのきめ細かい説明が必要。</p> <p>・学校斡旋就職内定率100%()</p> <p>イ・各種進路行事未実施(ー)</p> <p>・各種検定試験漢検21/111、英検1/4 数検1/7、ワープロ17/35、時事検定0/1(校内未実施)情報処理未実施</p> <p>今年度はコロナの影響で受験者数が減少、次年度はチャレンジする生徒数を増やす。(ー)</p>

府立野崎高等学校

<p>2 すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の規範意識や自律心を育成する。 (2) 教育相談・支援教育の体制を構築する。 (3) 他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神を育成する。 (4) 生徒の自尊感情や自立心を育成する。 (5) 校内防災体制の整備充実と、卒業後を見越した生徒の健康増進を図る取り組みを進める。</p>	<p>(1) ア・学校近隣や校門前の自転車交通指導を重点的に行う。教員による校外巡回、交通安全指導、校門立番等を実施する。 イ・遅刻指導、服装・頭髪指導、挨拶運動を実施する。 (2) ア・本校生徒の現状に合った教育相談・支援教育の体制を構築する。 イ・本校生徒の家庭環境、発達特性等の理解を深めるための教職員研修を実施する。 (3) ア・人権にかかわる生徒の問題発言やSNSにおける行動に対する指導を充実させる。 イ・喫緊の人権課題に対応する教職員研修を実施。 (4) ア・HR、生徒会、部活動、学校行事等で、生徒が主体的に参加・行動する取組みを進める。 イ・総合的な探究(学習)の時間で行う「コミュニケーションワーク」に関する教員の理解を深め定着を図る。 (5) ア・教職員実働防災訓練を企画、実施する。 ・生徒避難訓練の内容を見直して実施する。 イ・地域の保健所と連携したヘルスアッププログラムを実施する。</p>	<p>(1) ア・生徒指導部中心に定期的な校外巡回、交通安全指導を実施。 イ・年間の遅刻延べ回数を10000回未満にする(令和元年度は10249回)。 ・生徒向け学校教育自己診断の「マナー・校訓遵守」「頭髪・服装指導は適切」「遅刻指導・授業遅刻は適切」について、肯定的回答率を前年度より3%向上させる。(令和元年度は85.9%・64.5%・73.7%) (2) ア・教育相談委員会、就学対策委員会の運営をより充実させる。 ・居場所カフェの内容を充実させる ・生徒向け学校教育自己診断「相談できる教員は担任以外にもいる」の肯定的回答率を前年度より3%向上させる。(令和元年度は74.8%) イ・年間2回の教職員研修を実施。 (3) ア・生徒向け学校教育自己診断の「いじめ・差別に対して適切に指導」「人権や命の大切の教育を実施」について、肯定的回答率を前年度より3%向上させる。(令和元年度は78.2%・88.1%) イ・年間2回の研修を実施。 ・人権教育研究推進事業(文科省指定・2年目)に取組む (4) ア・生徒会主体の取組み(校内清掃等)が増えるようにする。 イ・各学年の総合的な探究(学習)の時間で、コミュニケーションワークを年間3回実施する。 (5) ア・地域と連携し、生徒避難訓練と合同した実働防災訓練を年1回実施。 イ・保健所と連携した年間1回のプロジェクトの実施。</p>	<p>(1) ア・昨年度各学期に1回以上今年6回実施(○) イ・8374回(12月時点)で昨年より1358回増() 92.5%(+6.6%) 63.9%(-0.6%) 73.6%(-0.1%)で未達成() (2) ア・教育相談委員会11回(前年度6回)、就学対策委員会20回(前年度16回)開催し、次年度に向けてより効率的体制を検討中。(○) ・コロナ禍にも関わらず、居場所カフェを昨年より同じ年間20回実施した。() ・結果77.5%(+2.8%)でほぼ達成(○) イ・年間2回の研修実施(○) (3) ア・さまざまな人権問題における被差別当事者の方々の講演会等を実施。結果は79.2%(+1.0%) 85.0%(-3.1%)、未達成() イ・年間2回の研修実施(○) ・人権教育研究推進事業(文科省指定)を実施した。 (4) ア・校内美化運動に取り組みアイスクリーム販売を実現した()。 イ・予定通り実施() (5) ア・11月に実働防災訓練を実施(○)生徒の避難完了時間が減少 イ・予定通り実施()</p>
<p>3 地域としっかり連携して生徒を育てる 学校づくり</p>	<p>(1) 各種地域連携行事に、本校生徒・教職員が今後も継続的に参加する。 (2) 本校が中心となった地域連携行事を企画・実施。 ア 近隣諸学校園の児童生徒と本校生徒の交流 イ 近隣諸学校園の教職員と本校教職員の交流 (3) 広報体制を確立する。 ア 本校ウェブページの充実。 イ 中学校への広報活動の充実。</p>	<p>(1) ア・だいたう森づくりクラブ(里山ボランティア)、地域教育協議会、ふれ愛教育協議会、中小企業同友会等の交流・協力関係を今後も維持する。 イ・本校生徒と教職員による地域清掃活動を継続して実施する(野崎レポリューション) (2) ア・近隣諸学校園の児童生徒と本校生徒が交流する行事、部活動、授業等を設定する。 イ・近隣諸学校園の教職員と本校教職員による、合同研修や研究授業等を実施。 (3) 本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信する広報体制を確立する。 ア・本校ウェブページの学校ブログ等を定期的に更新することで、最新の情報を生徒、保護者や地域住民に伝える。 イ・中学校への広報活動を充実させることで、本校志願者の確保に努める。</p>	<p>(1) ア・昨年度参加した地域連携行事には、今年度も生徒・教職員が参加できるようにする。 イ・年間4回実施(令和元年度は4回) (2) ア・本校生徒による出前授業や部活動での中学生との合同練習等を実施する。(令和元年度は出前授業を3回実施) イ・年間2回の研修等を実施。(令和元年度は近隣高校との合同研修を2回実施) (3) ア・ブログの更新を平均週4回以上(約200回)行う。(令和元年度は3/17までに278回更新) ・ウェブページにおいて未更新の古い情報をなくす。 イ・本校生徒による出身中学校訪問の実施。(令和元年度は48校) ・本校出願者の増加(令和元年度は236名)</p>	<p>(1) ア・コロナ禍により活動自粛() イ・年間4回実施。1回目は臨時休校中につき中止。() (2) ア・今年度も生徒会役員生徒等が、大阪スマホサミットに参加。またスマホの正しい利用方法に関する出前授業はコロナ禍により活動自粛。(○) イ・緑風冠高校と合同職員研修を2回実施(○) (3) ア・ブログ更新は3/17/現在313回で、昨年(278回)のペースを大きく超えている。() ・ウェブページにおいて未更新の古い情報を一部整理した。() イ・教員の中学校訪問は20校(昨年10校)、生徒による出身中学校訪問は36校(昨年48校)。 ・学校説明会を3回から4回に増やし、参加人数も215名から242名と増加し、成果があった。()</p>
<p>4 教職員の働き方改革推進</p>	<p>(1) 全ての教職員が担当業務についての必要性と効率化を常に意識する習慣を持つ</p>	<p>(1) ・管理職、首席、分掌、学年、各種委員会、事務室等の立場から業務の見直しを行う。</p>	<p>(1) ・教員一人平均の月当たり時間外勤務時間を、前年度より10%減らす。(令和元年度は27時間)</p>	<p>(1) ・教員一人平均の1か月あたり時間外勤務時間は約27時間。()</p>